

●器具の配線工事は必ず工事店、電器店（有資格者）などがあななってください。資格のない人の配線工事は法律で禁止されています。

施工説明

施工者様へ、この取扱説明書は、ご使用になるお客様に必ずお渡しください。

施工者様への安全上の注意

⚠ 警告 製品の取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負うことが想定される危険の程度を示します

●器具は下記の使用環境、条件では使用しないでください。

火災、感電、及び落下のおそれがあります。



一般屋外用器具

・周囲温度が製品概要の使用温度範囲を超える場所

・腐食性ガス、可燃性ガス、海岸線に程近い重塩害地域

・湿度が85%を超える場所、及び水の浸る場所

・振動、衝撃の多い場所

・粉塵の多い場所・可燃材に触れる場所

一般屋内用器具

・周囲温度が製品概要の使用温度範囲を超える場所

・腐食性ガス、可燃性ガス、海岸線に程近い重塩害地域

・湿度が85%を超える場所、及び雨や水のかかる場所

・強い風の吹き抜ける場所・振動、衝撃の多い場所

・粉塵の多い場所・可燃材に触れる場所

一般屋内用器具

●施工の際は施工説明書に従って正しくおななってください。

誤った取扱いがあると、火災、感電、または落下によるケガのおそれがあります。

●電源接続は施工説明書に従って確実におななってください。

接続不良による火災、感電のおそれがあります。

●アース工事は電気設備の技術基準に従い、確実におななってください。

アースが不完全な場合は感電のおそれがあります。

●器具の改造、部品の変更はおななわいでください。

火災、感電、及び落下によるケガのおそれがあります。

●器具は落下、火災、感電などの危険を避けるため、質量や風圧などの荷重に耐える場所に確実に取り付け、器具を布や紙など燃えやすいもので覆ったり、かぶせたりしないでください。

落、火災、感電のおそれがあります。

●前面カバー（グローブ）は、衝撃が加わると破損するおそれがあります。取扱いにご注意ください。

欠けやひび割れの発生している前面カバー（グローブ）は使

設置・施工

設置・施工

接地・施工

保守・点検

設置・施工

●投光器の取付け

△ 警告 投光器を設置の際、取付用アームに關しても新規交換をお願いいたします。

1. 投光器を取り付ける際は、安全に施工するため 2 人以上で作業を行ってください。
2. 投光器には推奨照射角度（推奨値）があります。
3. 取付け用アームは右記参考図（図 2）または下記の適合アームを使用してください。
4. 投光器の設置には方向性があります。投光器の注意シール貼付け側を看板面に向けて取付けてください。（図 3、図 4、図 5）
5. ただし、壁面（垂直面）の取付けはしないでください。（図 6）

△ 注意 投光器の異常な温度上昇や防水不良の原因となります。

6. 落下防止ワイヤは付属品を使用し、必ず施工してください。

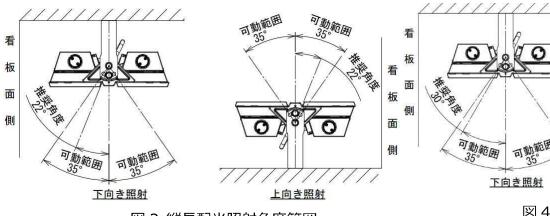


図 3 縦長配光照射角度範囲

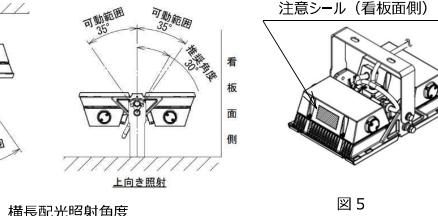


図 4 横長配光照射角度

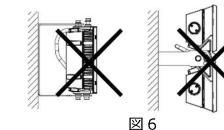


図 5 注意シール（看板面側）

○適合アーム

ラウンドアーム	
縦長配光 FA4020B（出幅 2m） (安定器取付け金具なし)	横長配光 FA4015B（出幅 1.5m） (安定器取付け金具なし)
	アーム（ストレートタイプ） FA4001 (□60 mm/出幅 1.5m~2m)

アーム（ストレートタイプ）
FA4001 (□60 mm/出幅 1.5m~2m)

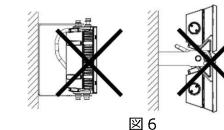


図 6

5. 投光器は、取付け用アーム（または構造物）の取付け面（取付けピッチ 100~120mm）に M10 ボルトボルトを 2 本使用し、投光器アームの取付け穴に挿入して、ボルト、平座金、ばね座金、ナットで確実に締付けてください。

アンカーボルトを施工する場合は、M10 のアンカーボルトで長さを 30~35mm とし、平座金、ばね座金、ナットで確実に締付けてください。（締付推奨トルク M10 : 24.5 N・m）（図 7）

※ボルト、座金、ナット類は付属していません。

△ 警告 締付けが不完全な場合、投光器の落による事故の原因となります。

6. 投光器は配光の種類により推奨角度が異なります。図 8 の照射角度でご使用を推奨いたします。

アームの角度目盛りは 5 度ピッチとなりますので、目盛りを目安に投光器アームの△マーク位置を合わせてください。

詳細の角度設定は水準器等を使用し調整してください。

角度の調整は、角度調整用六角ボルト（M8 : 1箇所）を緩め照射角度を決め、角度調整後緩みのないよう確実に締付けてください。（締付推奨トルク M10 : 24.5 N・m）

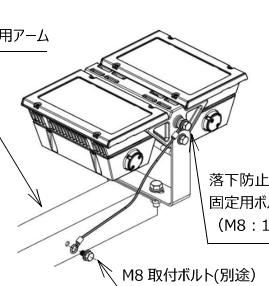
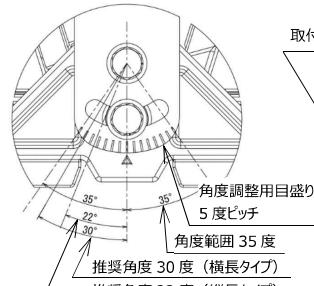


図 9

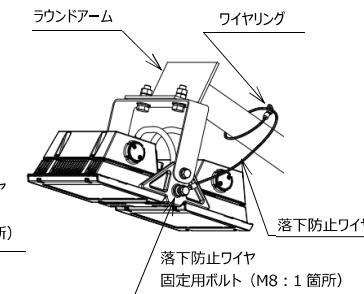


図 10

●落下防止ワイヤの取付け

△ 注意 落下防止ワイヤは付属品を使用し、必ず施工して下さい。

1. 付属の落下防止ワイヤを使用し、図 9 のように必ず構造物の堅牢（投光器の質量に耐える場所）な箇所に固定してください。
2. 即設アームなど構造物へのワイヤ固定が難しい場合は、図 10 のように落下防止ワイヤを 1 周以上巻付けてから、取付けてください。
3. 落下防止ワイヤを、図 9,10 のように落下防止ワイヤ取付けボルト M8 で所定箇所へ推奨締付トルク 12.5 N・m で確実に締付けてください。
4. 落下防止ワイヤは余長の無いように巻付けてください。

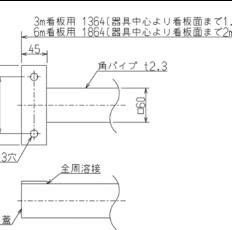
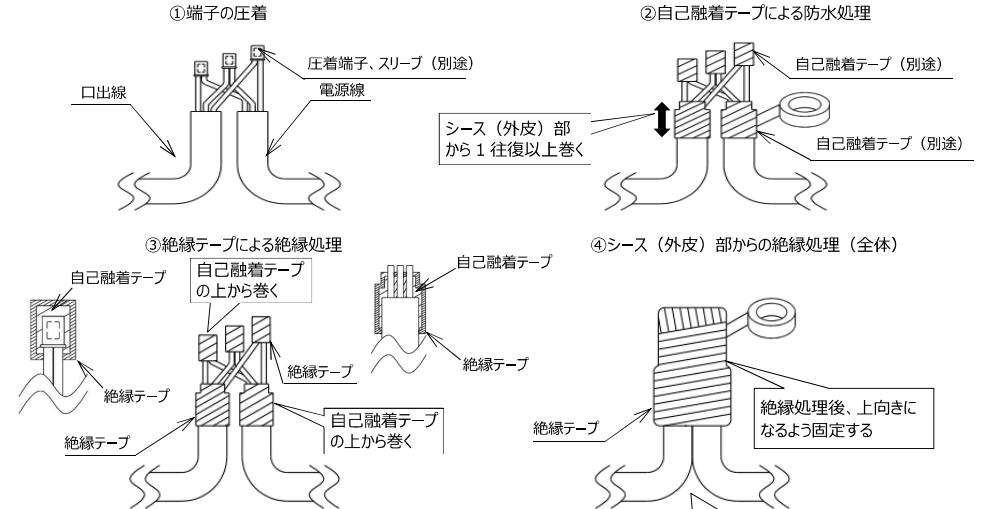


図 2

●電源線の接続

1. 投光器の口出線との接続には、600 V 2種EPゴム絶縁クロブレンキャブタイヤケーブル（2PNCT）と同等以上の性能を有するケーブルを使用し、口出線の黒色線、白色線に電源線を接続してください。
2. 口出線の赤色線がアース線です。アース線を使用して、D種接地工事を行ってください。
3. 図11①のように、口出線と電源線を圧着端子やスリーブ（別途）などを使用して確実に接続してください。
4. 図11②のように、接続部は自己融着テープを巻いて防水処理を行ってください。また、接続部のみではなく、シース（外皮）部も自己融着テープを巻いて防水処理を行ってください。
5. 図11③のように、自己融着テープを巻いた後に絶縁テープ（黒色）を巻いて、絶縁処理を行ってください。
6. 図11④のように、シース（外皮）部から接続部まで全体を覆うように絶縁テープ（黒色）で巻いて絶縁処理を行ってください。
7. 絶縁処理後は防水を確実に行なうため、防水性のあるボックスやアーム管内から飛び出さないように固定してください。また、露出配線する場合は結線部を上向きに固定してください。

※口出線の接続は、電気設備技術基準及び同解釈第12条に従ってください。（具体的な接続方法：内線規程1335-7参照）



△ 注意 自己融着テープで防水処理した後に、その上から絶縁テープを巻き絶縁処理を行ってください。
施工が不十分な場合、口出線の導体と絶縁体間、絶縁体とシース（外皮）間から毛細管現象により浸水の原因となります。

シース（外皮）部の間から水が侵入しないように処理

図 11

●電源線の引回し

1. 投光器の口出線を引張った状態で、設置した場合、投光器の口出線根元部分より、浸水する原因となります。口出線の引回しは図12のように、口出線根元部分に十分な余長を持たせ、半径 50mm 以上になるようにしてください。
施工に不備があると、浸水による絶縁不良、不点灯の原因となります。
2. 口出線の余長を保つために、投光器アームなどに、結束バンドや被覆付きの番線（別途）などで口出線を固定してください。固定する際は、口出線のシース（外皮）にキズをつけない程度の力で締付けてください。
施工に不備があると、絶縁不良やLED不点灯の原因となります。

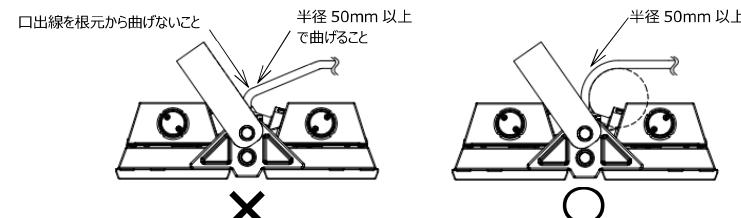


図 12